

[成果情報名]ビワたてぼや病(ビワサビダニ)の効果的な防除法

[要約]ビワたてぼや病の慣行防除のサンマイル水和剤に展着剤マイリノーあるいはジマンダイセン水和剤にハーベストオイルを加用して散布することにより、ビワ葉裏等における薬液の湿展性が高まり、薬剤単用散布に比べ本病の発生を低く抑えることができる。

[キーワード]ビワ、たてぼや病、ビワサビダニ、展着剤

[担当]農林技術開発センター・果樹研究部門・カンキツ研究室

[連絡先](代表) 0957-55-8740

[区分]果樹

[分類]指導

[背景・ねらい]

ビワたてぼや病は、ビワサビダニが食害した果面に灰色かび病菌が寄生することによって発現するとされている(森田 1997)。生産現場では本病あるいはビワサビダニに対する薬剤で防除しているが、薬剤を散布しても被害が多発する場合があります、ビワの苞や葉に密生する毛じによって、散布した薬剤が広がらないために防除効果が十分に得られにくい可能性が考えられる。

そこで、薬液の湿展性(濡れ広がり)を高めるために展着剤マイリノーやハーベストオイルを加用した効果を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. サンマイル水和剤等の薬剤に展着剤マイリノー(写真1、2)あるいはハーベストオイル(写真省略)を加用して散布することにより、薬液が葉裏の毛じ間にも良く広がる。
2. サンマイル水和剤へのマイリノーの加用およびジマンダイセン水和剤へのハーベストオイルの加用散布は、各薬剤の単用散布に比べ、ビワたてぼや病の発生を低く抑える(図1)。

[成果の活用面・留意点]

1. マイリノーの果樹における使用量(倍数)は、散布液10L当たり0.5~1mL(10,000~20,000倍)である。
2. マイリノー以外の展着剤の加用効果は確認していない。
3. ハーベストオイルは、2011年2月現在、ビワではナシマルカイガラムシとハダニ類に農薬登録があり、ビワサビダニに対して登録はなく、登録に向けた試験を今後実施予定。

[具体的データ]



写真1 サンマイト水和剤単用散布後の
ビワ葉裏の薬液付着状況(10倍)
(毛じ上に水滴ができ、薬液が
広がらない)



写真2 サンマイト水和剤+マイリノー散布
後のビワ葉裏の薬液付着状況(10倍)
(毛じ上で水滴にならず、全体に
薬液が広がる)

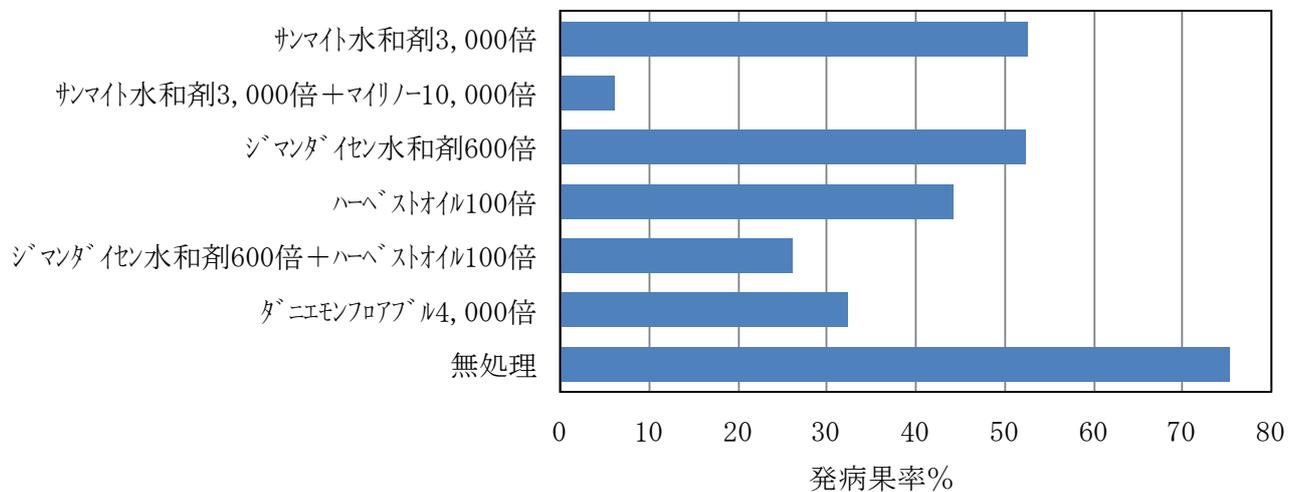


図1 ビワたてぼや病に対する薬剤の単用散布と展着剤等の加用散布による
防除効果の比較

※2009年11月19日(開花初期)散布、2010年4月7日(収穫期)調査

[その他]

研究課題名：果樹ウイルス抵抗性健全母樹育成と特殊病害虫調査

予算区分：県単

研究期間：2008～2010年度

研究担当者：宮崎俊英、菅 康弘